上士幌町公共交通計画【案】の概要

第１章　はじめに

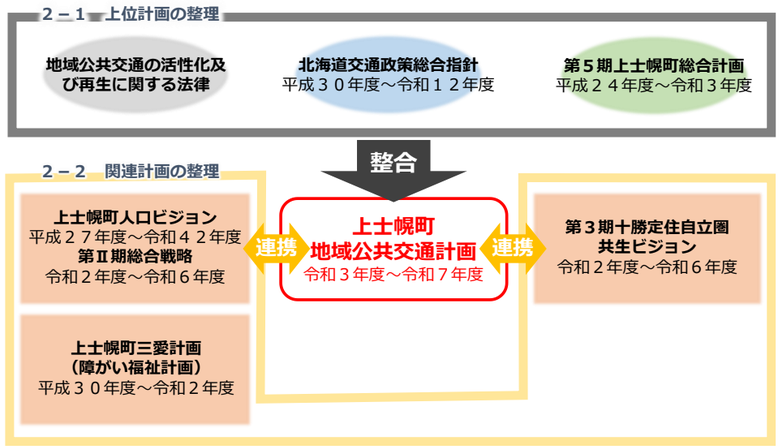
１－１　本計画の目的（P１～P2）

・本計画は、上士幌町交通ターミナルを拠点とし、上士幌町に住む全ての町民及び本町の滞在者が安全で快適に生活・移動できるまちの実現に向け、町内公共交通のあり方（指針）示すことを目的に、「上士幌町地域公共交通計画」を策定します。

１－３、４　計画の区域及び期間（P4）

・計画の区域は、「上士幌町全域」として設定します。
・計画期間は、令和３年度から令和７年度の５か年とします。

▼上士幌町地域公共交通計画の位置付け



第２章　上位・関連計画の整理

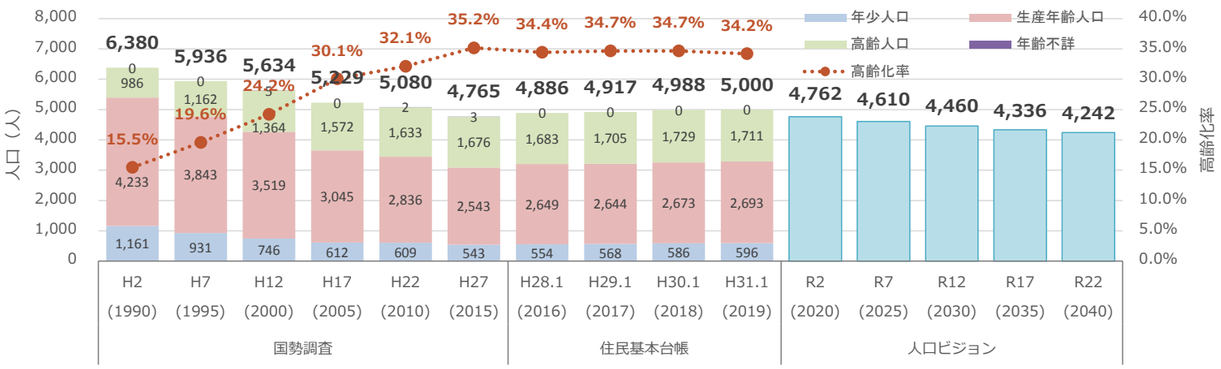
２－３　計画の位置付け（P１１）

・本計画の策定にあたっては、上位計画である「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」のほか、北海道の「北海道交通政策総合指針」、本町の「第５期上士幌町総合計画」や、関連計画である「上士幌町人口ビジョン・第Ⅱ期総合戦略」等との整合を図った内容とします。

第３章　地域及び公共交通の現状と課題

３－１　地域の現状（P１２～Ｐ１５）

▼上士幌町における人口推移



現　況	・本町の人口は昭和５５年と比較し、約４割減少	・平成２８年以降、子育て世代の移住者が増加
問題点	・人口減少等に伴う公共交通利用者数も減少	・子育て世代も利用しやすい公共交通体系への変更
現　況	・町内人口分布が散居形態	・高齢化率は平成２年以降、高まりつつあり、令和７年には４０％まで増加する見込み
問題点	・高齢者などの交通弱者の生活交通の確保	
現　況	・十勝管内の自動車事故は、年間約５００件発生しており、そのうち、約３割は高齢者が第一当事者	
問題点	・自動車に依存しない公共交通網の構築	・高齢者等の安全な移動の確保

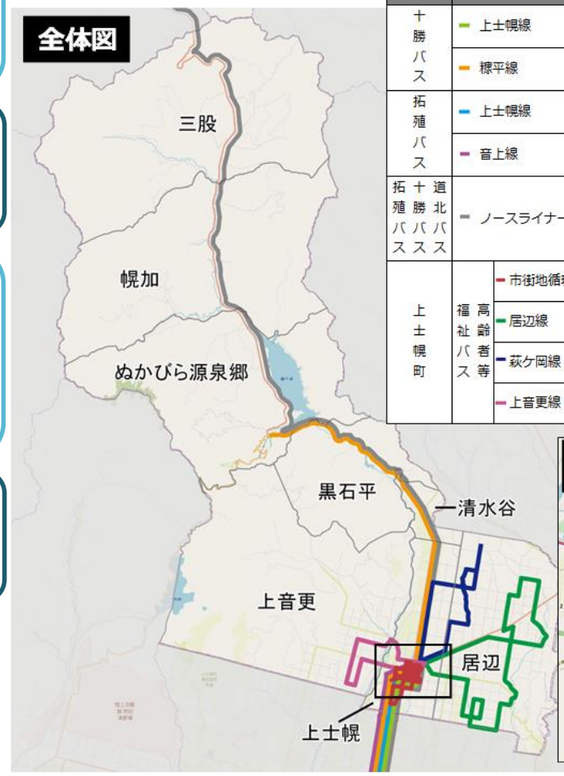
３－２　公共交通の現状（P１６～Ｐ２２）

現　況	・本町内を運行している広域交通は、学生の通学利用が主な目的であり、買い物や通院などの生活移動での利用は少ない
問題点	・朝・夕の利用は比較的多いものの、日中時間帯の利用は少ない
現　況	・町内交通として、４系統が運行されているが、子育て世代の利用はなく、高齢者が中心に利用 ・利用者が０人の便も存在
問題点	・市街地・農村部ともに固定利用者はいるものの、全体の利用者数は少ない

＋　本町が生活移動支援策に要している経費

9,000万円/年以上
（全９事業）※R2当初予算参考

▼上士幌町内を運行する公共交通網

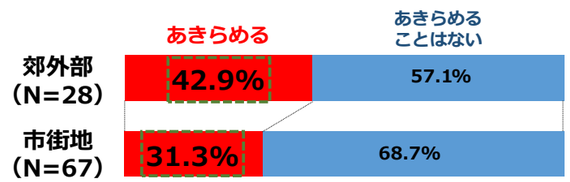


運行主体	路線名		区間		便数（便）	所要時間（分）	運行距離（km）
十勝バス	上士幌線		自 十勝バス本社	上	4	105	51.3
			至 上士幌郵便局前	下	4	109	
	糠平線		自 十勝バス本社	上	8	136	72.6
			至 ぬかびらスキー場前	下	8	137	
拓殖バス	上士幌線		自 帯広駅BT	上	5	73	40.8
			至 上士幌郵便局前	下	5	79	
	音上線		自 帯広駅BT	上	3	83	44.8
			至 上士幌郵便局前	下	4	86	
拓殖バス 十勝バス 道北バス	ノースライナー		自 帯広駅BT	上	1	225	192.2
			至 旭川駅前	下	1		
上士幌町	福祉バス 高齢者等	市街地循環	自 東地区集会所前	循環	5	70~97	16.7
			至 はげあん診療所東側				
		居辺線	自 ゲートボール場前	循環	3	67~93	40.7
			至 はげあん診療所東側				
		萩ケ岡線	自 はげあん診療所東側	循環	3	44~69	25.4
			至 ふれあいプラザ前				
		上音更線	自 はげあん診療所東側	循環	3	35~57	18.6
			至 ふれあいプラザ前				

３－３　上士幌町公共交通に係わる各種調査結果の整理（P２３～Ｐ３８）

■町民ニーズ調査結果

▼交通手段が不便なことで外出をあきらめるか



町民意見	・高齢者が自家用車に依存せずかつ安心して移動できるような交通体系が必要 ・町内の公共交通網が不便であり、外出をあきらめる割合が、市街地で約３割、農村部で約４割 ・外出する際の問題点として、「交通手段の便数」の少なさを負担に感じている

■町民意見交換会結果

町民意見	・子育て世代が増えているので、まちなかで飲食した際の帰宅交通を整備してほしい ・ぬかびら源泉郷地区と市街地との往来機会の増加に寄与する取り組みが必要 ・利用者意向を踏まえた、町内バス路線の継続的な見直しを行うことが必要 ・自宅付近での乗り降りができる工夫を取り入れた運行方法の検討が必要

■MaaS社会実験結果

上音更　萩ケ岡　▶ デマンド化

・Web 予約
・任意の場所に仮想バス停を設置できることにより、より多くの町民が利用可能に
・高齢者でも利用しやすい Web 設計
➡ 福祉バスの利用促進へ

町民意見	・農村部の小需要に即したデマンド交通の導入 ・デマンド交通の空き時間を有効活用した貨客混載事業の実施 ・ボランティアドライバーによる移動手段選択肢の拡大

上士幌町公共交通計画【案】の概要

第４章　上士幌町地域公共交通計画の基本方針

４－１　基本方針（Ｐ４５）

元気まち上士幌を支え、
町民のおでかけ・人と人とのつながりを創る公共交通網の構築

・本町のまちづくりの将来目標である「このまちが好きだから　みんなで創ろう　元気まち上士幌」を実現するためには、町民が住み続けられるための生活環境の整備のほか、町外からの移住者や来訪者が住みたい・行きたいと思ってもらえるための基盤づくりが必要です。

・とりわけ、交通分野としては、農村部及び市街地を運行する高齢者等福祉バスの見直し等による町民のおでかけ交通の確保をはじめ、上士幌町交通ターミナルにおける広域バス路線との接続性の確保など、町民をはじめとする人と人とのつながりを創る公共交通網の構築を進めることが重要です。

・また、構築した公共交通網を時代の変化に応じて、改善を続けることも重要であり、町民の居住状況や町民等からの公共交通に対する利用者意見を踏まえ、上士幌町地域公共交通活性化協議会で議論を重ねていきながら、各種事業の展開・改善を行っていくこととします。

４－２　事業の方向性（Ｐ４６～Ｐ４７）

課題	自動車中心の移動意識から公共交通も利用する移動意識への変革
課題	町内の高齢者の居住状況を考慮した公共交通体系の検討
課題	町内公共交通施策の見直しによるバスサービス水準の引き上げ
課題	町内各地区の繋がりを強化する公共交通網の構築
課題	広域的な生活移動の継続的な確保
課題	高齢者・免許返納者をはじめ、町民全員が安心して暮らし続けられる公共交通網の構築
課題	バスターミナル等を中心とした町内観光施設へのアクセス交通の確保
課題	町内交通と連携した、利便性の高い公共交通網のデザイン
課題	町民の広域的な生活移動も支援できる公共交通間の連携
課題	利用実態を踏まえた、効率的な公共交通網の構築
課題	コミュニティバスや乗合タクシーなどを組み合せた利便性の高い公共交通網の構築
課題	利便性の高い公共交通網に加え、運行情報の提供や効率的な待合環境の創出などを合わせて実施
課題	子育て世代が交流できる公共交通網の構築

方向性①　利便性の高い町内交通の実現～町民のおでかけの促進～

・町内公共交通網の見直しを継続的にしていき、町民が自動車を手放しても安心して移動できる環境を整備することで、安心・安全な「町民のおでかけ交通」の確保を行っていきます。
・また、MaaS等の新モビリティ事業について、最新技術の発展状況を鑑み、町内交通への導入を検討していきます。

方向性②　多様なモビリティを活用した町内滞在者への支援

・本町に訪れる観光客や短期・長期滞在する関係人口の方が、町民同様に便利に移動できる足づくりを積極的に行い、コロナ禍以降にも対応できる観光交通の構築をし、観光による地域活性化を推進していくことも必要です。
・また、生活交通同様にMaaS等の新モビリティ事業について、最新技術の発展状況を鑑み、観光交通へも導入を検討していきます。

方向性③　地域活性化に寄与する利用促進策の展開

・方向性①及び②を基に展開していく事業により、生活交通及び観光交通で利用しやすい公共交通網を整備していくとともに、同時並行的に、町民等が積極的に公共交通を利用する意識の醸成を図っていくことが重要です。

方向性④　持続的な公共交通の確保・維持に向けた体制の強化

・基本方針の実現にあたっては、上記の方向性に基づく事業の実施や変化する社会情勢等との適合性を検討・評価し、柔軟に本計画の見直しを行うことが重要であり、本計画に係る協議を行ってきた「上士幌町地域公共交通活性化協議会」で、PDCAサイクルによる推進事業の実施・評価を行う必要があります。

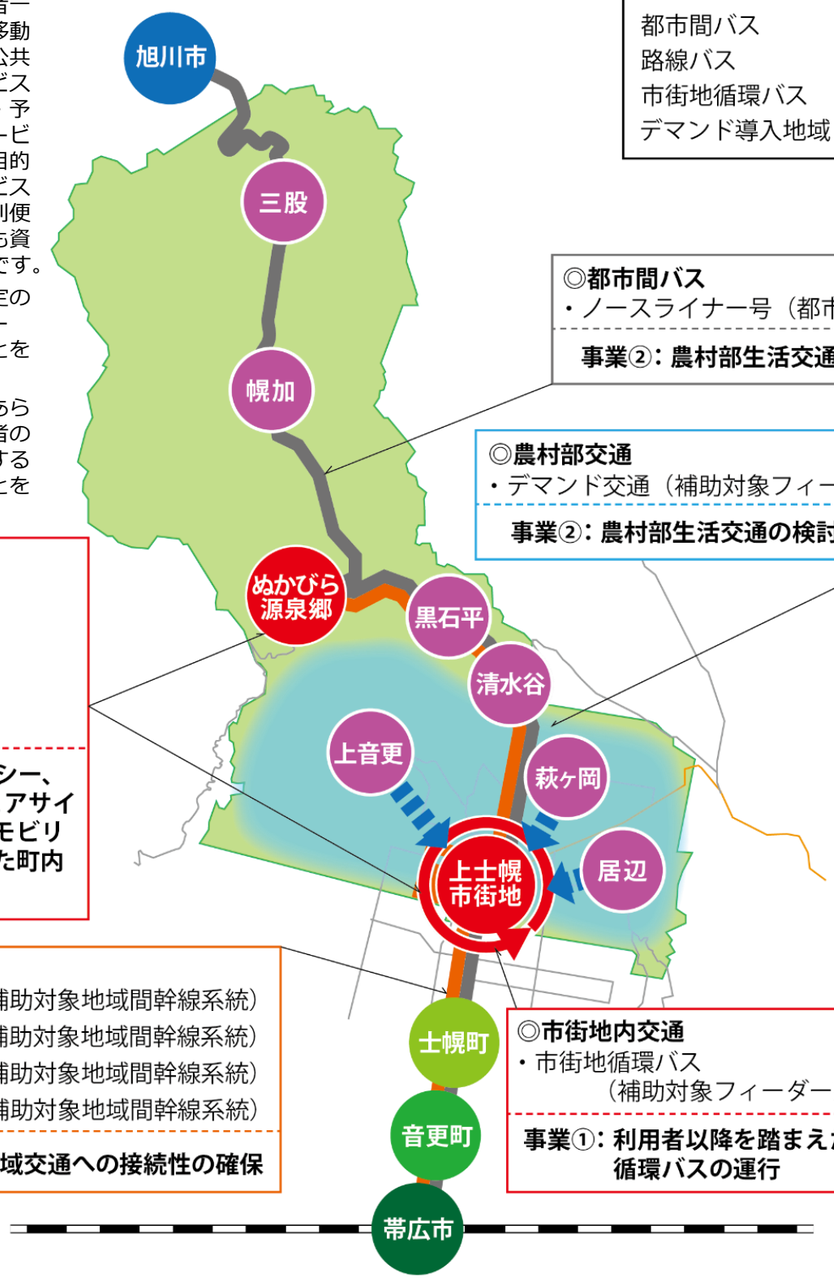
４－５　上士幌町内公共交通網の将来像（Ｐ５０）

【用語集】

MaaS：Mobility as a Serviceの略称で、地域住民や旅行者一人一人のトリップ単位での移動ニーズに対応して、複数の公共交通やそれ以外の移動サービスを最適に組み合わせて検索・予約・決済等を一括で行うサービスであり、観光や医療等の目的地における交通以外のサービス等との連携により、移動の利便性向上や地域の課題解決にも資する重要な手段となるものです。

カーシェア：利用者間で特定の自動車を共同で利用するカーシェアリングシステムのことを指します。

デマンド：路線やダイヤをあらかじめ定めないなど、利用者のニーズに応じて柔軟に運行するバス又は乗合タクシーのことを指します。



◎都市間バス
・ノースライナー号（都市間バス）
事業②：農村部生活交通の検討

◎農村部交通
・デマンド交通（補助対象フィーダー系統）
事業②：農村部生活交通の検討

◎観光交通等
・タクシー
・カーシェア
・シェアサイクル
・電動バイク
・電動キックボード
事業⑤：バス交通やタクシー、カーシェア､シェアサイクル等の多様なモビリティを組み合せた町内滞在者への支援

◎地域間幹線系統
・上士幌線 - 十勝バス（補助対象地域間幹線系統）
・糠平線　- 十勝バス（補助対象地域間幹線系統）
・上士幌線 - 拓殖バス（補助対象地域間幹線系統）
・音上線　- 拓殖バス（補助対象地域間幹線系統）
事業③：町内交通間や広域交通への接続性の確保

◎市街地内交通
・市街地循環バス
（補助対象フィーダー系統）
事業①：利用者以降を踏まえた市街地循環バスの運行

◎利用促進策等
事業④･⑥：モビリティシステム（ＩＣＴ技術）の発展への対応
事業⑦：町内を運行する全てのモビリティを網羅した公共交通マップの作成
事業⑧：乗り方教室や試乗会、利活用ワークショップの実施
事業⑨：町民等が利用したくなる運行形態及び運賃施策の検討・実施
事業⑩：その他上士幌町で住み続けたいと思える生活行動と公共交通が連携した仕組みづくり（貨客混載や住民共同経営による夜間タクシー等）

上士幌町公共交通計画【案】の概要

上士幌町地域公共交通計画の事業に係る SDGｓの目標

第５章　方向性に基づく事業内容（P５１～Ｐ６１）

方向性①　利便性の高い町内交通の実現～町民のおでかけの促進～

事業①　利用者意向を踏まえた市街地循環バスの運行

事業②　農村部生活交通の検討

事業③　町内交通間や広域交通への接続性の確保

事業④　モビリティシステム（ICT技術）の発展への対応

▼福祉バスのデマンド化による利用促進（令和２年度MaaS社会実験）

上音更　萩ケ岡　▶ デマンド化

・Web予約
・任意の場所に仮想バス停を設置できることにより、より多くの町民が利用可能に
・高齢者でも利用しやすい Web 設計
➡ 福祉バスの利用促進へ

※10月1日（木）～12月29日（火）まで週3日（火・木・金）　フルデマンド・事前予約で運行

▼ノースライナー号の乗降可能箇所の協議

ノースライナー　層雲峡・三国峠経由
"North Liner"　Via Sounkyo and Mikunitoge Pass

		From Asahikawa 旭川発			From Obihiro 帯広発		
乗車のみ Boarding only	10:30		旭川駅前【8のりば】Asahikawa Eki-mae (Asahikawa Sta.: No.8)		18:15		降車のみ Alighting only
	10:35		4条18丁目【旭川4条駅】4-Jo 18-chome (Asahikawa 4-jo Sta)		18:07		
	10:48		永山2条19丁目 Nagayama 2-jo 19-chome		17:57		
	10:56		当麻20丁目 Toma 20-chome		17:49		
	11:10		愛別橋 Aibetsu-bashi		17:35		
	11:30		上川森のテラスバスタッチ【上川駅】Kamikawa Mori-no Terrace Bus Touch(Kamikawa Sta.)		17:10		
	12:02		層雲峡 Sounkyo		16:43		
乗降可 Possible both getting on and off	12:45		十勝三股 Tokachi-mitsumata		15:57	乗降可 Possible both getting on and off	
	12:50		幌加温泉 Horoka Onsen		15:52		
	12:59		五ノ沢 Gonosawa		15:43		
降車のみ Alighting only	13:05		ぬかびら源泉郷 Nukabira Gensenkyo		15:37	乗車のみ Boarding only	
	13:28		上士幌 Kami-shihoro		15:15		
	13:39		士幌 Shihoro		15:05		
	13:57		音更 Otofuke		14:45		
	14:15		帯広駅バスターミナル【5のりば】Obihiro Eki Bus Terminal (Obihiro Sta. No.5)		14:30		

町内において、乗車・降車両方が可能となるよう、交通事業者と協議を実施

▼上士幌交通ターミナルを拠点とした観光地への移動最適化実験（令和２年度MaaS社会実験）

方向性②　多様なモビリティを活用した町内滞在者への支援

事業⑤　バス交通やタクシー、カーシェア、シェアサイクル等の多様なモビリティを組み合せた町内滞在者への支援

事業⑥　モビリティシステム（ICT技術）の発展への対応（再掲）

▼上士幌交通ターミナルを起点とした多様なモビリティによる観光行動例

方向性③　地域活性化に寄与する利用促進策の展開

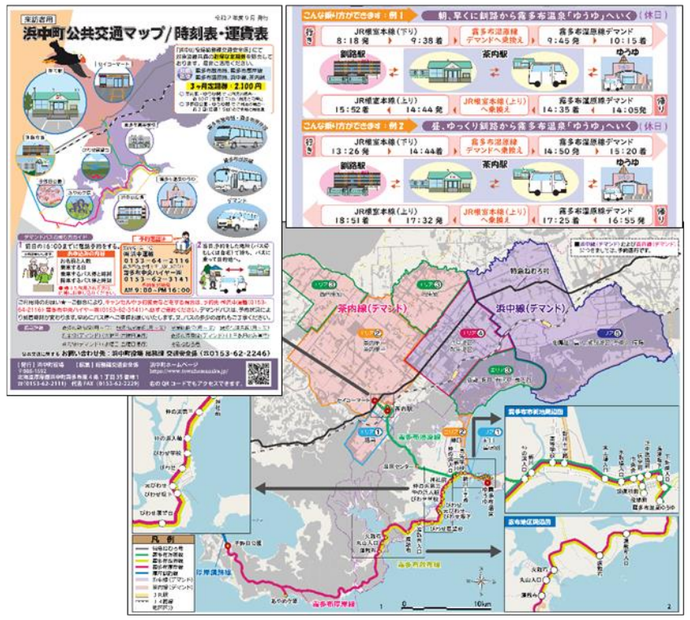
事業⑦　町内を運行する全てのモビリティを網羅した公共交通マップの作成

事業⑧　乗り方教室や試乗会、利活用ワークショップの実施

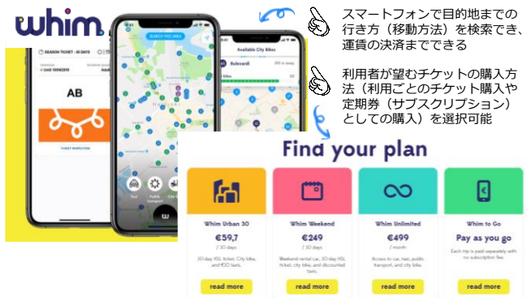
事業⑨　町民等が利用したくなる運行形態及び運賃施策の検討・実施

事業⑩　その他上士幌町で住み続けたいと思える生活行動と公共交通が連携した仕組み作り（貨客混載や住民共同経営による夜間タクシー等）

▼町内を運行する全てのモビリティを掲載したバスマップ例（浜中町）

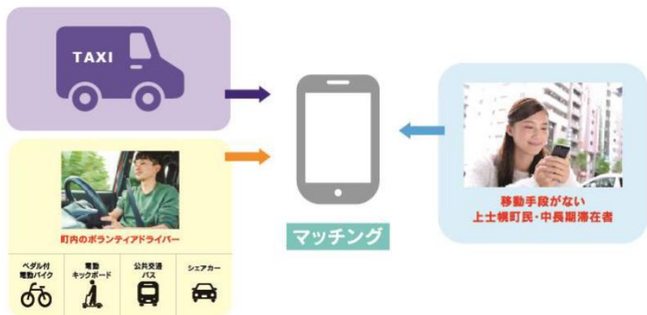


▼フィンランド-ヘルシンキで展開されているMaaS事例

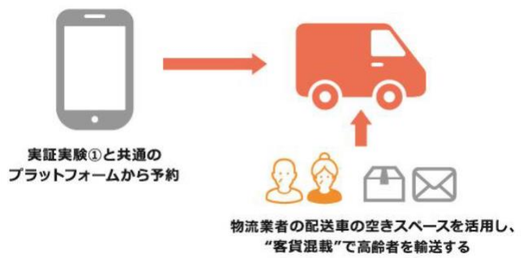


▼十勝バス及び拓殖バスで導入しているキャッシュレス決済システム

▼自家用車有償運送制度による移動手段の確保（令和２年度MaaS社会実験）



▼物流業者による客貨混載（令和２年度MaaS社会実験）



方向性④　持続的な公共交通の確保・維持に向けた体制の強化

事業⑪　上士幌町地域公共交通活性化協議会の機能強化

上士幌町公共交通計画【案】の概要

５－２　事業実施スケジュール（Ｐ６２～Ｐ６３）

基本方針	事業の方向性	事業	目標年次 令和３年(2021)	令和４年(2022)	令和５年(2023)	令和６年(2024)	令和７年(2025)	実施主体
元気まち上士幌を支え、町民のおでかけ・人と人とのつながりを創る公共交通網の構築								
	方向性①　利便性の高い町内交通の実現～町民のおでかけの促進～							
		事業①　利用者意向を踏まえた市街地循環バスの運行	△	●	●	●	●	・交通事業者 ・上士幌町 ・協議会
		事業②　農村部生活交通の検討	△	●	●	●	●	・交通事業者 ・上士幌町 ・協議会
		事業③　町内交通間や広域交通への接続性の確保	●	●	●	●	●	・交通事業者 ・上士幌町 ・協議会
		事業④　モビリティシステム（ICT 技術）の発展への対応	○	○	○	○	○	・交通事業者 ・上士幌町 ・協議会
	方向性②　多様なモビリティを活用した町内滞在者への支援							
		事業⑤　バス交通やタクシー、カーシェア、シェアサイクル等の多様なモビリティを組み合せた町内滞在者への支援	●	●	●	●	●	・交通事業者 ・上士幌町 ・協議会
		事業⑥　モビリティシステム（ICT 技術）の発展への対応（再掲）	○	○	○	○	○	・交通事業者 ・上士幌町 ・協議会

基本方針	事業の方向性	事業	目標年次 令和３年(2021)	令和４年(2022)	令和５年(2023)	令和６年(2024)	令和７年(2025)	実施主体
元気まち上士幌を支え、町民のおでかけ・人と人とのつながりを創る公共交通網の構築								
	方向性③　地域活性化に寄与する利用促進策の展開							
		事業⑦　町内を運行する全てのモビリティを網羅する公共交通マップの作成	△	●	●	●	●	・上士幌町 ・協議会
		事業⑧　乗り方教室や試乗会、利活用ワークショップの実施	△	●	●	●	●	・交通事業者 ・町民 ・上士幌町 ・協議会
		事業⑨　町民等が利用したくなる運行形態及び運賃施策の検討・実施	△	○	○	○	○	・交通事業者 ・上士幌町 ・協議会
		事業⑩　その他上士幌町で住み続けたいと思える生活行動と公共交通が連携した仕組みづくり（貨客混載や住民共同経営による夜間タクシー等）	○	○	○	○	○	・交通事業者 ・町民 ・上士幌町 ・協議会
	方向性④　持続的な公共交通の確保・維持に向けた体制の強化							
		事業⑪　上士幌町地域公共交通活性化協議会の機能強化	●	●	●	●	●	・上士幌町 ・協議会

△：検討、○：適宜実施、●：実施

第６章　事業の持続的な実施に向けた目標値設定（Ｐ６４～Ｐ６７）※数値は協議会確認後設定

評価指標		現況値		令和７年
評価指標①	市街地循環バスの利用者数		⇒	
評価指標②	農村部デマンド交通の利用者数		⇒	
評価指標③	公共交通カバー率		⇒	
評価指標④	地域間幹線系統の利用者数		⇒	
評価指標⑤	本町の公共交通に要している経費		⇒	
評価指標⑥	公共交通の満足度		⇒	
評価指標⑦	新たなモビリティの利用者数		⇒	
評価指標⑧	貨客・客貨混載の実施件数		⇒	
評価指標⑨	住民共同経営タクシーの利用者数		⇒	
評価指標⑩	免許返納者数		⇒	
評価指標⑪	クロスセクター効果		⇒	